

データベース論		講義	教授 樽井 勇之
科目カテゴリー	経営・経済コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23002207

1. 授業のねらい・概要

現代の社会では、ビジネス活動や社会活動を効率的に行うためには情報活用は必須である。情報は様々な活動の意思決定に利用され、その源泉はデータベースである。私たちの身のまわりに使われているデータベースとして住所録があり、企業においては顧客データベースや商品データベースがあげられる。情報をビジネス活動の道具として効果的に活用するためには、活動に必要なデータをその目的に合った内容、形式で蓄積し、容易に利用できるようにする必要がある。

ユーザが目的に合ったデータを蓄積し、利用できるデータベースを構築するため、データモデリング手法、およびデータベース言語である SQL 言語を学習する。さらに、大規模情報システムで利用されるデータベースの運用と保守に関する基本的な知識や技術を習得させる。

2. 授業の進め方

講義とコンピュータによる実習を組み合わせで行う。特に事例に基づいてデータモデリングの課題を行う。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 正規化理論演習
2. データベースの基礎	10. 関係演算
3. データベースの構成	11. SQL 言語の概要
4. データベースの種類	12. SQL 言語の文法
5. データモデリング	13. データベース操作言語・定義言語
6. 論理データモデル	14. 大規模情報システムにおけるデータベース
7. 概念データモデル	15. 大規模情報システムの運用と保守
8. 正規化理論	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回内容のテキスト該当箇所を復習しておく。さらに、予習としてテキスト該当箇所を読んでおく。これらの準備学修には、1 時間以上必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題を出題後にヒントを与え、次回授業時に解答のポイントを説明する。定期試験については模範解答を掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

リレーショナルデータベースの仕組みや、データベースの概念が理解できるようになること。

7. 成績評価の方法・基準

課題（50%）、期末試験の結果（50%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：谷尻かおり「データベース基礎の基礎」改訂新版、技術評論社

9. 受講上の留意事項

日ごろからデータベースの活用について関心を持つこと。わからないところは積極的に質問して下さい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。